

さけます展示施設のページ 標津サーモン科学館

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009722

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます展示施設のページ 標津サーモン科学館

標津サーモンパークの全景（右写真）。
広い公園内にメイン施設のサーモン科学館（下写真中段）や、サーモンハウス（レストラン等、下写真下段）などの施設がある。



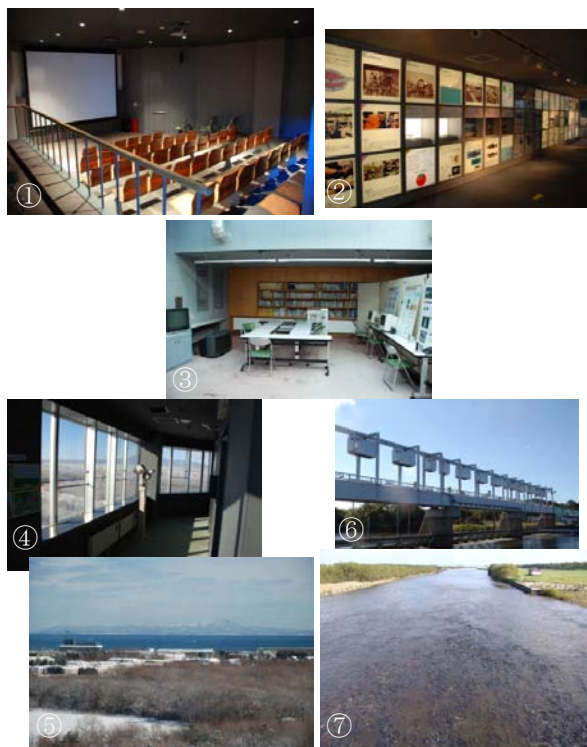
館内展示の様子。①大水槽。②魚道水槽。③中水槽。さけますや根室海峡の魚が見られる。④「イトウ」コーナー。⑤⑥チョウザメの池。こんな感じで指を食べられてみよう！⑦稚魚コーナー。

北海道の東部、世界自然遺産に登録された知床半島の南側に位置する標津町は、さけます増殖事業が盛んに行われ、サケの水揚げ日本一となるなど日本で有数の「サケのまち」です。サケの回帰の増加とともに、サケのふるさと標津町のシンボルの施設として、1991年9月15日、標津サーモン科学館がオープンしました。

科学館は、標津町市街地のほど近く、さけます増殖河川となっている標津川のほとりにある「標津サーモンパーク」内にあります。サケ科魚類の展示数は国内最多で、さけますを「生態から文化まで」紹介することをモットーに、さまざまな展

示を行っているほか、子供から大人まで対象にした体験学習、小学校への教育活動や学生、研究者の受け入れ、研究機関との共同研究など、教育・研究活動も活発です。

館内展示でまず目に飛び込んでくるのは海水を使った大水槽で、秋にはサケやカラフトマスの群泳を見ることができます。魚道水槽では秋に標津川に溯上したサケが観察できるほか、運がよければ産卵行動も見ることができるかもしれません。さらに、「幻の魚」ともいわれるイトウや、さけます類の稚魚を水槽展示したコーナーもあります。また北の魚であるチョウザメ（交雑種でベスカル

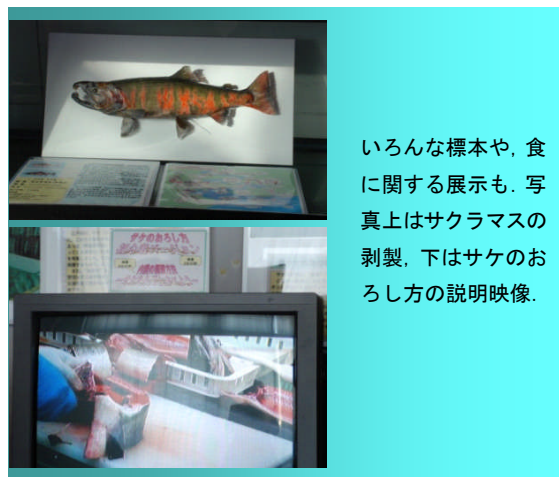


①映像室。「サケの一生」や「標津とサケ」などを上映。②パネル展示。③談話室。特別展の開催もあります。④⑤展望室とその眺め。後方に見えるのは国後島。⑥⑦標津川にかかる観覧橋。秋にはこんな溯上が見られるかも。

種というそうです。)は、飼育している池に指を入れると餌と勘違いしてかぶりつく(歯がないから安全です。)ので人気となっているそうです。そのほか、サケをいろんなテーマから取り上げたパネル展示室やさけます関係図書などが見られる談話室、サケをテーマとした映像を上映する映像室など水槽展示以外の見所も満載です。科学館からエレベーターで上る地上 30m の展望室では、知床連山や国後島など、これぞ根室地方!といった風景が展望できます。またサーモンパークの名のとおり、科学館のある敷地は公園になっていて、隣接する標津川には観覧橋がかけられ、秋には溯上するサケの勇壮な姿を橋上から見るができます。

2008 年、科学館が注目を集める出来事がありました。科学館を運営する標津町が館長を公募し、全国 100 名以上の中から選ばれた「新しい館長」が誕生したのです。

新しく館長に着任されたのは下山一知さん。以前は航空会社に勤務され、その豊富な営業経験による新しい科学館の運営が期待されています。「今まで培ってきた人と人とのつながりを活かしたい。」と館長への応募の動機を話してくれた下山さん。「町民からも、観光客からも注目される



いろんな標本や、食に関する展示も。写真上はサクラマスの剥製、下はサケのおろし方の説明映像。



写真上は体験学習の様子。採卵実習(左)、放流体験(右)。写真下は今回お話を伺った下山館長(右側)と学芸員の市村さん。

ような科学館を目指したい。」と抱負を語ってくれました。

2008 年はサケの回帰が減少しサケのまち標津町にとっては残念な年になりましたが、新館長をはじめ職員皆さんのご活躍で多くの方に「さけます」のことを知ってもらおうとともに、またたくさんのサケが帰ってくることを願って標津サーモン科学館をあとにしました。

標津サーモン科学館

北海道標津郡標津町北 1 条西 6 丁目
1 番 1-1 号
TEL 0153-82-1141



入館料 有料(詳細は科学館まで)
開館期間 2月1日～11月30日
開館時間 9時30分～17時
休館日 2/3/4/11月は水曜日休館
5月～10月は無休